



THE GEORGE
WASHINGTON
UNIVERSITY
WASHINGTON, DC

Institute for Science
& Technology Policy

THE GEORGE WASHINGTON UNIVERSITY



THE MAUREEN AND MIKE MANSFIELD FOUNDATION

Connecting People and Ideas to Advance Mutual Interests in U.S.-Asia Relations

Taking Stock : 北東アジアにおけるプルトニウム

国際文化会館
岩崎小彌太記念ホール
2018年6月28日(木)
10時-12時

福島第一原子力発電所の破滅的な事故から7年経った今も、北東アジア諸国における核エネルギーの将来は不確実です。日本の原子力発電所の再稼働のプロセスに時間を要しています。また、韓国では、安全面での課題と原子力安全規制体制の改組が想定よりも遅く進んでいます。現在世界中で半分以上の原子炉を建設中である中国でさえ、見通した成長よりも減速しています。

この核燃料サイクルを廃止する計画と相まった原子力への益々慎重な状況の中、重要な議題が提起されます。核エネルギーの低成長と燃料価格の低下を鑑みると、使用済み核燃料の再利用は不経済であり技術的にも核廃棄物問題の解決策にはなりません。日本における廃止された原子燃料サイクルにどのような将来と課題があるのでしょうか。貯蔵したプルトニウムについての透明性を証明する先導者として、本地域での信頼醸成のために取ることでできる追加措置はあるのでしょうか。そのような能力をもつ国々は、どの程度そしてどのような情報をお互いに共有すべきなのでしょうか。北東アジアにおける対策は、蓄積したプルトニウムの危険性を減少させる世界的な地球規模の進展に影響を与えることができるのでしょうか。

本イベントでは、上記の項目について米・日・韓の専門家が議論を行います。スピーカーには、シャロン・スクアツソーニ氏（ジョージ・ワシントン大学）、太田 昌克氏（共同通信社）、アラン・クーパーマン氏（テキサス大学オースティン校）、ジョーシャン・チョイ氏（カリフォルニア大学バークレー校原子力研究所）、ヨンス・ファン氏（韓国原子力研究所）、トーマス・カントリーマン氏（軍備管理協会）を迎えます。

参加ご希望の方はメールに1) ご氏名、2) ご所属、3) ご連絡先を明記の上、マンスフィールド財団 tokyoadmin@mansfieldfdn.org までお申込みください。

プロジェクトについて：ジョージ・ワシントン大学による本プロジェクトはジョン・D & キャサリン・マッカーサー財団の支援及びマンスフィールド財団の協力の下、3つの区分に当てはまる国々（核兵器保有国、原子力艦を所有又は開発中の国、使用済み核燃料再利用の民間事業がある国）、核安全保障促進のため核分裂性物質に関する透明性を強化に焦点をあてています。本プロジェクトの研究結果は、2018年初秋に出版される予定です。